

ねらい

楽しくいろいろな色水をつくることから思いついたことを試す学習活動に取り組み、
つくり出す喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

幼児期との
つながり

- ① 子どもの心がときめき、心が動く環境構成(ストーリー性、豊富な材料、特別感のある材料など)
- ② 魅力的な自由度の高い活動(自由な発想・表現活動が特徴の造形遊び)
- ③ 子どもの安心とワクワク感、学習を支える教師の働きかけ(共感する、認める、問いかけるなど)

実践内容



幼稚園の用具を借用

幼保の先生とともに考える環境

- ・ 幼児期に行う「色水遊び」とはどんなものか。
幼保での「色水遊び」を見て知る時間設定
- ・ 幼保にある魅力的で豊富な用具を使用
- ・ ストーリー性のある設定
(色水研究所・博士と研究員)



自分で作ったたくさんの色水

【色を混ぜてできる様々な色への
気づき】

色を混ぜて、好きな色を作ろう。水と混ぜると、絵の具の時より色が少し薄くなるね。たくさんの色水を混ぜると、色が透明になったよ。



【色や並べ方などの面白さ、楽し
さを感じている】

みんなで作るとたくさんの色が作れたよ。友達の色と合わせたら、もっと楽しくなったよ。色がきれいだな。



いろいろためしてはっけんしよう!

【色水をどのように並べるか
考えている】

たくさんの色ができてジュース屋さんみたい。仲間の色を集めて並べると楽しいね。虹色になるように並べてみたよ。



博士、こんな色が出来たよ!!

授業を振り返って

図画工作科の「造形遊び」は、活動内容に自由度があり、活動の発展性などが子どもたち自身に開かれている学習活動である。造形遊びのように、材料や場所、空間などの特徴から発想し、関わりながら行う造形活動は、幼児期に行われる遊びとよく似ている。そのため、幼児期の保育実践を生かしやすく、また、子どもの育ちや学び(豊かな感性、試行錯誤、思考力、自分の願いを実現する粘り強さ等)にもつながっている。子どもの夢中度も高く、架け橋期の1年生にとって大切にしていきたい活動であると実感している。